

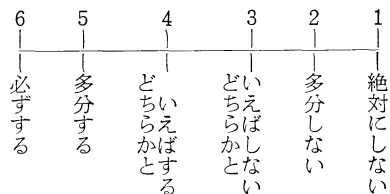
# 援助を求める行動と社会的ネットワーク

清水 徇

人は誰でも生きてゆく上で処理すべき緊急かつ重要な問題に出会うが、その中には自分一人の力では解決することのできない問題もある。それは、たとえば、子供の登校拒否であったり、あるいは、自分の失業といった問題であったりするが、人がそれらの問題を放置しておかずに解決しようと思えば、彼は他人の援助を求めることになる。世間にはそれらの個別な問題を処理すべき専門家、あるいは専門機関といったものも存在するが、人々はむしろ身近かな、自分の社会的ネットワーク内の相手に援助を求めることの方が多い。この論文では、人々が社会的ネットワークを形成している相手との間で交換するであろう援助についての因子分析を手掛りに、役割と援助との結びつきを検討し、更に、それを基に役割間の地位関係をも明らかにしたい。

因子分析のための項目は、Cantril (1965) の「Patterns of Human Concern」などから人々の間に関心が高く、かつ、重要であろうと思われる事柄を30選び出した。京都工芸繊維大学の学生98人に対し、彼らが将来それらの事柄に出会った時に、配偶者、両親、兄弟、姉妹、親族、隣人、仕事の同僚、友人という相手との間にそれぞれどのような行動をするかについての質問を次のような形で行なった。

(例) あなたは家庭内の不和を友人に相談しますか。



因子分析は役割をこみにして行ない、4因子を抽出し、これをバリマックス回転軸にかけ、各項目の最終的な因子負荷量を求めた。この4因子が全体に占める寄与率は60%であった。個々の因子は寄与率の大きいものから順に、

それぞれ相談（感情的援助）、情報的援助、負担の小さい援助、負担の大きい物質的援助、などの因子と命名した。相談の因子に高く負荷した項目は、失業の時、家庭内の不和、子供の育児、しつけ、子供の登校拒否などであった。情報的援助の因子に高く負荷したのは、講に入る時の紹介、子供の就職、子供の嫁・婿の世話、の諸項目が、また、負担の小さい援助の因子には、引越しの手伝いの依頼、小さな物品（たとえば、大工道具など）を借りる、一寸した買物を頼む、などの項目が高い負荷量を持っていた。更に、負担の大きい物質的援助の因子には、急に大金が必要となった時の借金、自分の不始末の尻ぬぐい、保証人を頼む、などの項目が高い負荷量であった。

負担の小さい援助以外の3因子については、個々の役割との結びつきは因子得点を計算することによって求めた。というのは、負担の小さい援助の因子で代表されるような事柄は、日常的にどこでも見られる援助行為であり、必ずしも自分一人で解決できないような問題でもないのだから、この分析は省略した。

さて、まず相談（感情的援助）の因子であるが、各役割がどのような位置を占めるのかが表1に示してある。分散分析の結果、役割間の差は有意で ( $F=143.37, df=6, 582; P<.01$ ) あり、個々の役割間の差は、友人、兄弟姉妹、仕事

表1. 相談（感情的援助）において、各役割の占める位置

役割	配偶者	両親	兄弟姉妹	親族	隣人	仕事の仲間	友人
平均	1.56	-0.19	-0.14	-0.49	-0.54	-0.19	0.00
分散	0.87	0.65	0.70	0.44	0.33	0.41	0.52

表2. 表1に基づく分散分析表

変動因	SS	df	MS	F
被験者間	182.35	97		
被験者内	502.56	588		
役割残差	301.10	6	50.18	143.37**
	201.46	582	0.35	
全体	684.91	685		

\*\* $P<.01$

の同僚、両親の間、および、親族と隣人の組み合わせ以外のすべての組み合わせにおいて見いだされた(表2)。相談(感情的援助)の因子に高く負荷している項目は、主として、家庭生活の維持にかかわる家庭内の問題が中心であり、配偶者が最も重要な相手として選ばれていることは当然であろう。表1の結果からは相談(感情的援助)の相手として配偶者の次には、選ばれ方が顕著とはいえないが、友人、兄弟姉妹、仕事の同僚、両親が続いている。

社会的ネットワーク内でこれらの人々が相談の対象とされるのにはどのような意味があるのだろうか。Mckinlay (1973)は、家庭内の不和、子供の病気などの諸問題が起った時、専門家あるいは専門機関に相談せずに社会的ネットワークを利用する人々は心理的な安心を得ようとしているのだと述べている。すなわち、友人、同僚などに相談することで、自分が直面している問題は誰もが会おう問題であり、また、それが大して重要な問題ではないことを彼らから知らされて、人は心理的な安心を得る。このことはある意味で問題解決を遅らすことにもなるが、実際、人にとっては具体的な解決よりも心理的な安心を求めることの方が重要であるのかも知れない。

情動的援助についての各役割の因子得点の平均値は表3に示してある。分散分析によって各役割の差を検定したところ、役割間の差は有意であり

表3. 情動的援助において各役割の占める位置

役割	配偶者	両親	兄弟姉妹	親族	隣人	仕事の同僚	友人
平均	-0.61	-0.48	-0.08	-0.24	0.13	0.73	0.57
分散	0.64	0.49	0.75	0.69	0.88	0.20	1.00

表4. 表3に基づく分散分析表

変動因	SS	df	MS	F
被験者間	246.09	97		
被験者内	440.96	588		
役割	151.69	6	25.28	50.56**
残差	289.27	582	0.50	
全体	687.05	685		

\*\*P<.01

( $F=50.56$ ,  $df=6,582$ ;  $P<.01$ ) , 個々の役割間の差については, 仕事の同僚と友人, 隣人と兄弟姉妹と親族, 親族と両親, 両親と配偶者, の組み合わせを除くすべての役割間に有意な差が見られた(表4)。

また, 同様な処理を負担の大きい物質的援助について行なった結果が表5, 表6である。この場合においても役割間の差は有意 ( $F=29.38$ ,  $df=6,582$ ;  $P<.01$ ) であった。更に, 個々の役割間の差は, 兄弟姉妹と両親, 親

表5. 負担の大きい物質的援助において、各役割の占める位置

役割	配偶者	両親	兄弟姉妹	親族	隣人	仕事の同僚	友人
平均	-0.29	0.29	0.54	0.19	-0.67	-0.16	0.15
分散	1.27	0.75	0.98	0.76	0.43	0.99	0.85

表6. 表5に基づく分散分析表

変動因	SS	df	MS	F
被験者間	271.87	97		
被験者内	414.84	588		
役割	96.96	6	16.16	29.38**
残差	317.88	582	0.55	
全体	686.71	685		

\*\* $P<.01$

族と友人, 友人と仕事の同僚, 仕事の同僚と配偶者, 以外の役割の間に見られた。

なお, 人が情報的援助と負担の大きい物質的援助を得ようとする時に, 個々の役割がその対象としてどれほど求められているのかについての相互関係をより具体的に示したのが図1である。図1には, 各役割の因子得点の平均値が, 縦軸を情報的援助に, また横軸を負担の大きい物質的援助にとったグラフ上にプロットしてある。この図から, 仕事の同僚, 隣人は情報的援助の与え手であり, 親族・両親・兄弟姉妹は物質的援助の与え手と考えられ, 更に友人はそのいずれの援助においても選ばれている。一方, 配偶者はどちらの援助の与え手としても低い位置しか占めていない。この2つの援助において

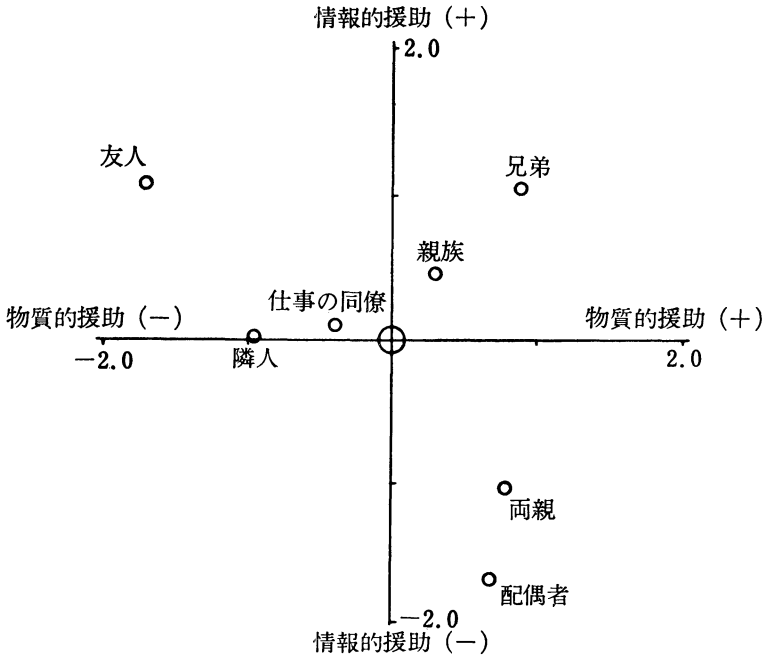


図1. 表3と表5を二次元上にプロットした図

配偶者の占める位置は、前の相談（感情的援助）の場合とは対称的である。しかし、これは配偶者が援助すべき資源を持たないからというよりも、被験者達が配偶者の援助を既に考慮した上で答えているからであると思われる。

さて、以上の結果を踏まえて、今度は援助行為と地位との関係について考えてみたい。社会的交換の理論では、勢力あるいは地位は次のように説明されている。「人は他人との間にそれぞれの持っている資源を交換するが、そこで交換される資源は両者にとって価値あるものであり、なおかつ、同じ程度の価値を持っていなければならない。だから、人が他人から自分の必要とする資源を与えられるということは、その人が他人に特定化されない義務を負うことになり、彼が他人の必要とする資源をもって返礼しなければ、彼は他人との間に地位関係を認めなければならない (Blau, 1964)。」このことか

ら、適当に返済できないような恩恵を他人から得たりすれば、人は自分の意志とは関係なく他人との間に地位関係を認めざるを得ないことが分かる。社会的ネットワークにおける人間関係においてもこの原則は当然はたらいてる。Katz (1967) は、社会的ネットワーク内での対人関係は本来シンメトリーであるが、そこに心理的負担 (cost) という追加条項が入り込むことで、そのシンメトリーな関係は崩壊すると述べている。このシンメトリーな関係の崩壊によって勢力、地位関係が生まれるが、もしそのような状態を避けようとするれば、人はこの追加条項を受け入れたくないという意志表示をしなければならない。たとえば、ある人が大金を必要とした時に、その金を親族からではなく銀行から借りたとする。親族には余分な金があることを知りながら銀行から利子つきの金を借りる決定をすることで、彼は自分がそれまで親族との間に維持してきたシンメトリーな関係を将来も保つことができるのである。しかし、このような選択を誰もが常にできるわけでないところから、社会的ネットワーク内での人間関係にも勢力・地位の関係が生まれざるを得ないことは容易に想像できる。

だが、地位関係が資源を媒介とした援助行為からのみ生じるのであれば、表1から表3に示されている役割の因子得点の値はそのまま地位の指標であると考えられよう。人々の間に一般化され、更には制度化された援助と役割の結びつきについての共通意識があることは確かに必要なことではある。しかし、地位を決定するには、役割同志の結びつきという無視することのできないいま1つの要因がある。人が他人の援助によって問題解決をはかろうとする場合、その相手は必ずしも1人であるとは限らない。解決しようとする問題によっては2人以上の相手に援助を求めなければならない。たとえば、交通事故にあって負傷したりした場合には、人は医者と弁護士にたよらなければならないかも知れない。また、自分がある資源を非常に必要としている場合には、彼はその資源を持つと思われるすべての人に援助を求めるかも知れない。たとえば、大金を必要としている場合に、両親、兄弟、親族のすべてからかき集めようとするかも知れない。このような時に、それらの人々は

結びついた形で高い位置を占めるであろう。この結びつきは別の意味からも重要である。

図2には、Whyte (1943) の観察したノートン街の不良少年達の地位関係が示してあるが、彼らの中でロング・ジョンの地位に注目してみたい。上下の線で結ばれているのは、永年に亘る援助の交換によって作られた威信の序列である。「ロング・ジョンは威信という点からは他の若者達に何の影響力

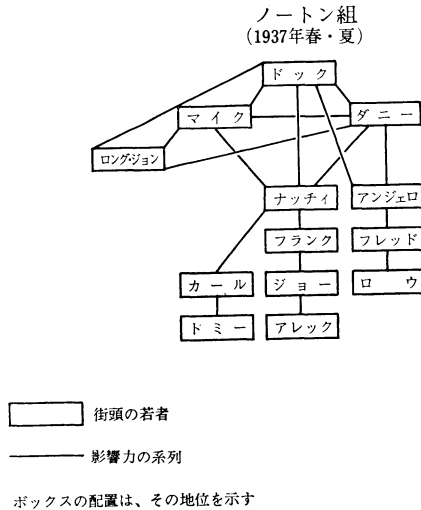


図2. 不良少年の地位関係 (Whyte, 1943)

を持っていなかった。しかし、彼はドックを中心とする3人のトップ・グループと親しいということで、現実にはグループの中で高い地位にあった。」これは、重要な資源を持っていると思われる者と結びついている者にも、また高い地位が与えられることを示している。人が援助を必要とする際に、このロング・ジョンのような相手はよく利用される。本人は必要な資源を持っていないが、その人を通じて援助を求めることで、実際に必要な資源が手に入るということはわれわれの周りにもよくある事実である。だから、援助の交換においては現実に資源を持たなくても、他の重要な資源を持つ人々との結

びつきの点から高い地位を与えられる人もでてくる。

では、どのような方法で役割の地位関係を明らかにすればよいのだろうか。ソシオメトリーのデータから、単なる一次選択だけではなく、選択された者同志の結びつきを調べるには、通常クリーク・ステータスを求める。クリーク・ステータスはさまざまな方法で求めることができるが、ここでは Leik (1970) と同じ立場に立って、経済学の産業連関分析で用いられている投入・産出モデルを集団内での地位関係を見出すのに応用しようとした Hubbell (1965) の手法を使って求めてみることにする。ただし、調査すべき事柄は役割間での直接の選択関係ではなく、援助行為において個人がどの役割を選択しているかについての関係であるから、Hubbell の手法をそのまま用いるわけにはいかない。

地位関係を調べたのは、情動的援助と物質的援助の二つについてである。ただし、相談（感情的援助）は配偶者のみ高く、他の役割は余り援助を求める顕著な対象とされていないので、これ以上の分析は行なわなかった。さて、その調べ方であるが、先の因子分析において、情動的援助と物質的援助の因子にそれぞれ高い負荷（負荷量 0.5 以上）を与えた項目をとりだし、項目毎に援助行為による役割間の  $7 \times 7$  の対称行列を作った。そして、この行列を因子毎に重ね合わせ、情動的援助と物質的援助の行列を作り上げた。この、行列の各細胞を列毎に列和で除すことによって、その列で示される役割が、単独で援助を求められているのか、それとも他の役割と結びついた援助を求められる比重が高いのかを、行列の対角要素を手掛りに知ることができる。また、その対角要素を 0 に置き換えた行列  $W$  を単位行列  $I$  から引いた行列  $(I - W)$  の逆行列を計算すれば、全体のネットワークの中での地位関係は明らかになる。

こうして導いた情動的と物質的の二つの援助における各役割の地位指数は標準化して図 3 のグラフに示してある。役割間の結びつきを考慮して求めた情動的援助での地位序列は、友人、兄弟姉妹、親族、仕事の同僚、隣人、両親、配偶者の順（標準化した地位指数はそれぞれ、1.09, 1.08, 0.46,



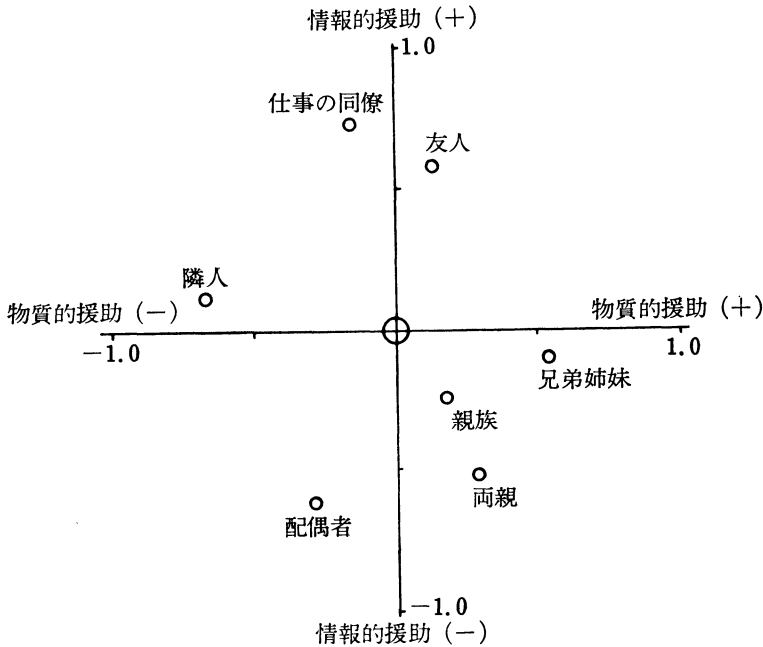


図3. 標準化された地位指数を二次元上にプロットした図。

0.06, 0.03, -0.98, -1.68) であり、また、物質的援助では、兄弟姉妹、両親、配偶者、親族、仕事と同僚、隣人、友人の順 (0.87, 0.80, 0.73, 0.27, -0.37, -0.98, -1.72) であった。

この結果を先の因子分析による結果と比較すると情報的援助においては、配偶者、両親の地位は同じように低いが、役割間の結びつきを考慮に入れて求めた地位関係では、兄弟姉妹、親族の地位は高くなっている。因子分析で情報的援助の因子に高く負荷した項目を見ると、それらはどれも、1人だけではなく多くの相手に援助を求めるような性質の問題が多かった。情報的援助の場合には、援助を求めた人の相手が必ずしも問題解決をするだけの資源を持たずに情報の仲介に入るだけでもかまわない場合がよくある。それらの理由から、この援助は両親と配偶者以外のすべての役割の結びつきが強く、

図3のような結果になったものと思われる。

物質的援助においては、配偶者は親族というネットワーク内にあるが故に、親族内の役割の結びつきによって高い地位を占めるようになったのであろう。友人の地位が逆に低くなっているのは、友人は援助を求められることも少なく、なおかつ、援助が主として隣人、仕事の同僚といった低い地位の者達と結びついた形で求められているからといえよう。

ところで、これまでの記述からは、社会的ネットワークの中に役割による地位・序列関係が生まれるのは不可避のように思われるかもしれない。しかし現実には、援助の交換が実際には行なわれているにもかかわらず、地位関係が生まれない場合もあることは注意しておきたい。それは、援助を与える側の配慮によって可能となる。Sussman (1953) は両親と娘の家族との間に行なわれる援助行為を分析した結果、次の様に述べている。「援助の方向は両親から娘の家族へと一方的であるが、その援助は緊急時にしか行なわれず、それも、娘からの内密な情報を受けた後で、彼女の夫にそれとは気付かれないように行なわれる。なぜならば、もし夫に判るような方法で援助をしたりすれば、両親と夫の間に地位関係が生じ、そのことで、彼らが将来も夫から得たいと願っている永続的な愛情を失なうことを怖れるからである」。Sussman の分析に見られるように、援助行為を行なったこと、あるいは、それが自分であることを明らかにしなければ、援助の与え手と受け手の間のシンメトリーな関係を保つことはできよう。だが、この問題にまで立入ろうとすれば社会的交換における報酬と負担についてのよりきめ細かい分析が必要となる。

## 参 考 文 献

- (1) Blau, P. M. (1964). *Exchange and Power in Social Life*. New York: Wiley.  
「交換と権力」間場寿一他訳(1974)新曜社。
- (2) Contril, H. (1965). *The Pattern of Human Concerns*. New Brunswick, N.J. : Rutgers Univ. Press.
- (3) Hubbell, C. H. (1965). An input-output approach to clique identification. *Sociometry*, **23**, 337-399。
- (4) Katz, F. E. (1966). Social participation and social structure. *Soc. Forces*, **45**, 199-210。
- (5) Leik, R. K., and Nagasawa, R. (1970). A sociometric basis for measuring social status and social structure. *Sociometry*, **34**, 55-78。
- (6) Mckinlay, J. B. (1973). Social networks, lay consultation and help-seeking behavior. *Soc. Forces*, **51**, 275-292。
- (7) Sussman, M. B. (1953). The help pattern in the middle class family. *Amer. sociol. Rev.*, **19**, 22-28。
- (8) Whyte, W. F. (1943). *Street Corner Society: The Social Structure of an Italian Slum*. The University of Cicago Press.  
「ストリート・コーナー・ソサイエティ」寺谷弘王訳(1974)垣内出版。